

父母の広場

親と子の絆。そして父母会と校友会の絆。

鈴木 弘幸

福岡県父母会長

1981年 政治経済学部卒



私自身、昭和56年に政治経済学部を卒業して現在、校友会福岡市地域支部で幹事長、そして息子が入学してくれた縁で、父母会会長をお引き受けしております卒業生の1人です。以前から校友会を通して、父母会の方々とは接する機会がありましたがお子さまが卒業されますと、父母の方も卒業？でお会いする機会もなくなりませんでした。ここ福岡県では、県内の校友数約5400名のうち、福岡市に3000名が在籍しておりますが、若い卒業生の校友会行事への参加が少なく、いつも決まったメンバー（年配者中心）しか集まらないのが現状でした。ところが今では、若い世代の会「平成会」ができ、初代会長の尽力により、多くの若い校友が参加してくれるようになりました。

明治大学を支える両輪、の校友会と父母会。福岡県ではお互いに来賓という形で、それぞれの行事に参加しておりますが、ある父母会役員は「子供が卒業したら、私たちもう参加出来ないのですね」と一言。私の会長の代がよい機会では？と思い、校友会行事を父母会役員全員に案内して、積極的に参加を働きかけました。1年間、無難に会長職をこなせば良いのですが、昨年初めての試みで、父母会有志6名で韓国同窓会へ表敬訪問させて頂きました。大変良い思い出ができ、今年九州地区の会長も誘ってまた参加したい

と思います。そして10月に開催されました校友会大分大会へも、隣県ということも有り役員7名が参加いたしました。

ここ九州という土地柄か、道行く人は他人でも、何かのきっかけで明治卒と聞けば数十年来の友、のような気分になるのが明治気質であり九州気質です。今では校友と父母会役員とで、まるで校友同士のようなお付き合いが出来るようになりました。卒業後も何らかの形で父母会の方々に参加して頂くことは、そのお子様が参加する機会にもつながります。この記事を読んで頂いております方々も機会があれば、進んで校友会行事に参加してみてください。新たな出会いがきっと出来ることでしょう。

〈親と子の絆〉

子供は親の背中を見て育つ。と昔から言われておりますが、私は在学中、体育会スケート部でフィギュアをやっておりました関係で、今でもスケートには縁があり、仕事の傍ら家内と2人で選手育成に携わっております。当然我が子たちも連れて行きますので、いつしか息子もスケート靴を履き始め、そして父親と同じ高校、そして同じ明治大学へ入学しました。息子は今、法学部の3年に在籍しておりますが、まだまだ選手を続けたいと言っております。私も両親から思う存分に選手をやらせて

もらいました結果、88年カルガリー五輪冬季大会で引退することが出来ました。その背中を見ているのでしょうか？自分もやれるところまでやってみたいと、授業は程々で練習しております（学校には極力行って欲しいのですが）。私が両親から受けた理解を、息子にも示してあげる事が結局、私が出来た親孝行にもなると思っただけでまだ頑張らなくてはなりません。どのご家庭でも子供には無条件だと思います。私に限らず、今後も我々卒業生世代の二世が、続々と明治に入学することでしょう。その子達が、明治大学を誇りに思い、親への感謝を忘れずに、そして卒業後は校友会の一員として活躍してくれる事を心から切に望みます。私の息子も含めて…。



表敬訪問した韓国同窓会で（後列中央が筆者）